

8-4-21 鉄道専門委員会

1. 主な活動の記録

- (1) 委員会の開催
専門委員会の開催回数：9回
(通常開催1回、WEB会議8回)
- (2) 鉄道専門委員会セミナーの開催
若手および中堅技術者を対象とした、鉄道に関するセミナーを年1回開催した。
※通常は年2回の計画としているが、コロナ禍のため1回した。
・12月16日(木) 協会会議室
「鉄道とまちづくりーコロナ禍と脱炭素の流れの中で」
講師 谷口 守氏
筑波大学 システム情報系社会工学域 教授
参加者 30名
- (3) 「品質セミナー」のためのエラー事例の収集と分析を実施。
昨年に引き続き、委員出身各社からエラー事例を収集し整理した。昨年までの168例に13例を追加し181例とした。
また、今年度は品質セミナーに参加した。
なお、当委員会は隔年参加のため、来年度は不参加予定。
- (4) RCCM教材の改訂
RCCM 自主学习システム教材の改訂は、誤字脱字、章立てのルールなど軽微な変更を行った。
同時に演習問題については、章毎の問題数のバランスに配慮し、新規問題の追加および削除を行った。
- (5) 「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」(改訂第11版)に関する改訂および普及活動
「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」(改訂第11版 第2版)について、発注機関等からの問合せにより計10部を配布した。
また、建コンの一般用ホームページに掲載している正誤表についても、必要に応じて随時、更新する。

- (6) 「報酬積算の手引き」(改訂第11版)に関する質疑対応

「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」((一社)建設コンサルタンツ協会 改訂第11版)に対する質疑について対応した。
質疑件数は、8件であった。

- (7) 独立行政法人 鉄道・運輸機構との協議

独立行政法人 鉄道・運輸機構と設計歩掛や業務関連について意見交換会(隔年)を行った。
また、継続審議が必要な課題については、必要に応じて実態調査も含めた対応を行い、前向きに協力していく。

2. 次年度の活動について

次年度の活動としては、「鉄道専門委員会セミナー」開催を開催する予定である。エラー事例の収集と分析及び品質セミナーWGの参加、RCCMの自主学习システム教材改訂、「鉄道土木の計画・調査・設計報酬積算の手引き」(第11版)の普及を実施する。加えて、内容の見直しを行い、小改訂することを考えている。

また、鉄道・運輸機構に対しては、意見や要望を提示し協議を継続していく。

その他、鉄道総合技術研究所や鉄道・運輸機構の窓口として、技術標準の改定に伴う資料の収集と展開などの役目を果たしていく。

(鉄道専門委員会委員長 横田 昌也)